法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

大蔵清虎上演年譜考

Hashimoto, Asao / 橋本, 朝生

(出版者 / Publisher)
法政大学能楽研究所 / The Nogami Memorial Noh Theatre Research Institute of Hosei University
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
能楽研究 / 能楽研究
(巻 / Volume)
33
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
30
(発行年 / Year)
2009-03-31
(URL)
https://doi.org/10.15002/00007397

Hosei University Repository

大蔵清虎上演年譜考

橋本朝生

はじめに

大蔵八右衛門清虎は大蔵流宗家一二代とされる弥右衛門虎清の次男、一三代虎明の弟で、分家の八右衛門家を樹てた狂言役者である。父や兄とともに江戸前期に活躍し、いまの狂言の姿を形作った一人である。虎明については「大蔵虎明上演年譜考」(『能楽研究』31、平成19・7。以下「前稿」とする)で考えたが、続いて清虎の上演年譜を提示し、それを中心にその事績を追ってみたい。

一　生年等

まず由緒書の類によって生涯の概要を見ておきたい。大蔵八右衛門家文書(法政大学能楽研究所鴻山文庫蔵)の「狂言始り」は弥右衛門家の由緒書で、池田廣司氏「大蔵八右衛門の狂言伝書」(『日本庶民文化史料集成四狂言』、昭和50)に翻刻されているのだが、その翻刻では省略された付箋に次のようにある。

Hosei University Repository

大蔵弥右衛門次男
大蔵八右衛門

右八右衛門義大蔵八右衛門次男ニ而
台徳院様御代（被召出）御用等度々被
仰付御扶持方五人配当米弐拾石
被下置金春座狂言ニ被
仰付相勤御奉公相勤申候
台徳院様（大猷）ゟ（父弥右衛門）伯蔵主之面拝領仕
右之面譲リ請今ニ所持仕候
尤拝領之子細は私ゟは言上不申候

本文一行目の二つ目の「八右衛門」は「弥右衛門」とあるべきものである。

八右衛門家の由緒書としては、享和二年（一八〇二）のものが『重修猿楽伝記』に、弘化四年（一八四七）のものが八右衛門家文書にある。前半はほぼ同じなのだが、後者には傍線を付した部分が加わり、次のようにある。

一先祖　大蔵八右衛門
台徳院様御代年月不知被　召出御扶持方
五人扶持配当高弐拾石被下置金春座狂言被
仰付相勤寛文十二（ニトアリ）子年八月五日於南都病死仕候五十三歳
虎清道倫次男　当卯迄二百六年ニナル

Hosei University Repository

○清虎　法名道寿

正保二年十一月七日

上様酒井讃岐守殿下屋敷江御成の節御能

御座候而八右衛門頭取被　仰付芸之義先祖ゟ増たる

と御誉メ被遊候御諚両三度迄蒙り申候

没年の寛文一二年について「二トアリ」の異説注記がある。没年については後述するが、異説の寛文二年（一六六二）でいいらしい。「大蔵八右衛門家の狂言伝書」の翻刻には触れられていないが、実は傍線部は本文とは別筆で、寛文二年没と行年五三は連動しているものである。正保二年（一六四五）の酒井邸御成の「上様」は将軍家光。この時清虎がほめられたことは虎清の文書にも見える。八右衛門家文書の「狂言第一之心持之大事」は「三界唯一心」と「有門」「空門」「非有非空門」「亦有亦空門」の四門の講釈を相伝するものだが、[注1]将軍にほめられたことへの「ほうひ」として虎清より一一月二七日に相伝されたというのである。

岡田紫男の『猿楽聞書』（早稲田大学演劇博物館蔵）に書写されている「大蔵家系図」（原無題）には次のようにある。

奈良ニ而生寛文二寅年八月五日於京都死南都金躰寺に葬法名道寿行年五十三母は春日市右衛門妹也江州日野生奈良ニ而死法名妙寿

やはり寛文二年没、行年五三とあり、慶長一五年（一六一〇）年生れということになる。

母は観世座笛方の春日市右衛門の妹とあって、虎清の後妻である。虎清が四五歳の時の子で、虎清は既に江戸で活動しているが、関西での記録も多く、奈良を本拠としていたようで、当然奈良で生れたものと考えられる。古く笹野堅氏が「狂言の発生と発展」（『能楽全書五能と狂言』、昭和19）で近江の日野の生れとされ、『狂言辞典事項編』（昭和

Hosei University Repository

51)にも引き継がれているが、これは「大蔵家系図」で母親の生れた所とあるのと混同されたものかと考えられる。(注2)

虎明は慶長二年生れなので、一三歳下の弟になる。前稿にあげたが、『春日正預祐範記』元和八年(一六二二)三月一二日条に「弥太郎兄弟」が現れ、「舎弟十一二ノ者也」とあるが、虎明二六歳、清虎一三歳の時のことである。

上演記録の初出が同じ年の薪能で兄と共演した〈聟入〉である。そして翌々年の寛永元年(一六二四)、一五歳の時から江戸での記録が見え始める。先に寛文一二年没と行年五三は結びつかないとしたが、仮にそうだとすると元和六年生れになり、五歳の時から江戸での活動が始まることになるので、これは早すぎよう。記録の上からも慶長一五年生れが支持されることになる。記録の類には最初から八右衛門の名で出てくるが、後に整理されたものかと思われ、寛永五年の『薪能番組』では「弥右衛門子」とある。ただ翌年の前将軍秀忠の加賀藩邸御成能の記録で八右衛門の名で見え、「弥右衛門子」の注記があるが、かなり早くから八右衛門を名のっていたらしい。「八右衛門」は「やえもん」とも読める。そうした意図のある命名だったのであろう。前述の「狂言始り」の付箋で「弥右衛門」を「八右衛門」と誤っていたのは、その意識の表れとも見られよう。

そして兄虎明が寛永一一年に家督を相続したことが虎清・清虎宛の財産の譲り受け状によってわかるが、清虎はそれから間もなく寛永一〇年代半ばに弥右衛門家の分家として八右衛門家を樹てたようである。八右衛門家文書にある清虎が譲り受けた文書のうち、「長びつに入日記」は虎清が寛永一四年・一八年に三つの長櫃に入れた銀子等を清虎に譲るという状で、また寛永一七年の「習末代之証文之書物之事」は寛永九年に清虎が代筆した「式三番間狂言」の相伝状で、これらが分家樹立を示すものと考えられる。そして由緒書の類にあるように、五人扶持配当米二〇石を得たのであろう。

寛永二〇年の「ゆいごんゆづり状之事」は、虎清が将軍家光より拝領した「きつねのにたりの面」を清虎に譲ると

Hosei University Repository

いうものである。『わらんべ草』自伝に「にたりの面」を、弘化四年の弥右衛門家の「由緒書」の虎清の項に「伯蔵主面」を、寛永一二年三月晦日に拝領したとあるが、『わらんべ草』七七段に「一伯蔵主　＼似タリ匡云」とあって〈釣狐〉の前シテの専用面である。「狂言始り」の付箋にいまも八右衛門家にあると言っていたものである。(注3)

居所は江戸では正保二年の『江戸屋敷附』（前掲「狂言の発生と発展」所引）によって京橋七丁目とわかる。奈良では子息の成虎の代のものだが、貞享四年（一六八七）刊『奈良曝』に納院町とあり、清虎に遡らせていいだろう。元興寺極楽坊門前の辺りで、金春座の大蔵大夫の屋敷もあった。

二　活躍期―上演年譜から

既に上演年譜に触れているが、記録の類によっていま把握しえているもの全部を別表に示した。(注4)一曲を一回と数えることとして五六七回あるが、重複や疑わしいものなどを除けば五四五回、うち狂言は三八〇回、一〇六曲の記録がある。(注5)

これで清虎の上演のどれくらいを把握できるのかはわからない。たとえば先に触れた正保二年の家光の酒井讃岐守邸御成は『徳川実紀』で確認することができるが、上演記録は知れない。しかし清虎のことを考えるにはまず十分な分量ではないかと思われる。

最も記録が多いのは『古之御能組』で、この番組集成は奈良の八右衛門宅での狂言初めといった八右衛門家の私的な催しを載せることなどから、八右衛門家に伝わった、恐らくは清虎自身のメモが元になったものかと考えられるが、(注6)それにしては虎明よりも記録が少ない。

父や兄との共演が圧倒的に多いが、弥右衛門は寛永一四年までが虎清、正保二年以後は虎明である。弥太郎は寛永

Hosei University Repository

二〇年までが虎明、慶安三年（一六五〇）以後は虎明の子息栄虎である。

以下、この年譜からうかがえることを考察していこう。

1　清虎の立場

寛永四年まではほとんどアドばかりで、シテは〈鶏聟〉の聟、〈居杭〉の居杭といった若い役者にふさわしい役を勤めている。そして寛永五年の金春七郎浅草勧進能から変化が認められる。それまで〈千歳〉は何回か勤めているのだが、この勧進能では初日に〈千歳〉、四日目に恐らく初めて〈三番三〉を勤め、また〈太刀奪・磁石・二人大名・庖丁聟〉と四日間毎日シテを一曲演じている。この時清虎は一九歳、このあたりから一人前の役者と認められたものと考えられる。翌年の北七大夫浅草勧進能、翌々年の金剛大夫浅草勧進能でもほぼ同様で、江戸城内などでもシテを勤めるようになる。

寛永五年から七年まで共演者に熊蔵という名が見えるが、これは虎明の長男である。前稿でも触れたが、寛永七年の金剛大夫勧進能までしか記録がなく、その年に一四歳で亡くなったかと思われる。父や祖父がアドを勤めてのシテが多く、後継者として大事に育てられていたことがわかるのだが、清虎も七歳しか違わないと考えられるが、叔父として付き合っていたということになる。

寛永一四年には共演者に弥太郎の名が見えないが、虎明自身の記録がない。一六年にはまた見えるようになるのだが、このあたりから目立つのは、清虎が伊達邸といった大名の藩邸などでの催しでシテを勤めるのが多いことである。アドは四郎兵衛や弥次兵衛で、二人とも長命姓だが、彼らと共にグループとして活動しているものと見られる。(注7) 寛永一六年は、ちょうど先に分家を樹てたかと推測した頃のことである。

Hosei University Repository

父虎清の江戸での記録は寛永一四年一〇月八日の松平越中守定綱邸能が最後で、清虎は〈楽阿弥〉〈居杭〉のアドで付き合っているが、病気のため引退したらしい。そして寛永一六年には『間・風流伝書』を清虎に代筆させて、間狂言・狂言風流の心得をまとめ、寛永一八年には狂言論書と言うべき「覚」を「ちうふにてうてふるい申候間やう〳〵かなかきいたし」て清虎に相伝し、正保三年五月にはそれまでに書き留めていた狂言台本をまとめて一本とし（いわゆる大蔵虎清本）、奥書を清虎に代筆させて、七月に亡くなる。虎清の著述活動は清虎に支えられていたのである。

この前後も、江戸城内での催しなどでは相変らず弥太郎との共演が多く、その後もあまり変らない。正保二年には虎明は弥右衛門を名のるようになるが、少なくはなるものの共演はしていて、明暦元年（一六五五）まで続く。その三月の堺七堂浜での勧進狂言は虎明一世一代のものであるが、これにも清虎は三日目までだが、出ている。そしてその年の八月を最後に虎明はほとんど舞台に立たなくなったようで、その頃から、清虎は虎明に代るような活躍をするようになるが、慶安三年から弥太郎が見える。寛永六年に生れた虎明の次男、後継者となった栄虎である。また承応二年（一六五三）からは長大夫が見えるが、寛永一三年生れと推測される栄虎の弟である。[注8] 彼らとも清虎は叔父として付き合っている。

虎明やその子どもたちとの付き合い方を詳しく見たのは、虎明との関係を考えたいためである。従来清虎の没年が寛文一二年で虎明との年齢差が二三で、虎清は晩年に生れた後妻の子を偏愛したとされ、[注9] 虎明と清虎との仲は険悪であったかのように思われがちだったのだが、上演記録を見る限り、そうは見られない。清虎は分家として宗家を支えていたと見る方がいいように思われる。先に虎明は寛永一四年頃と明暦二年以後の記録があまりないとしたが、万治二年には京都へ養生に行ったと『わらんべ草』にあり、前稿で見たように寛文元年に隠居する時も「病気故」であった。想像をたくましくすることになるが、体の弱い人ではなかったかと思われる。虎清としてはそういう宗家を支え

Hosei University Repository

る役目を弟に与えたのではないだろうか。前述のように「式三番間狂言」を「総領に代々相伝仕る事」としながら代筆させ、後にそれを相伝するというのも、そういうことなら納得できる。先に見た伝書類の代筆・相伝も、虎清が清虎を頼ったことは確かだろうが、清虎としては次子の役として引き受けたものと見ていいだろう。

八右衛門家は後には金剛座付きになるのだが、清虎は「明暦三年能役者付」に虎明や栄虎と同じく金春座付きとある。大蔵流では虎清の弟が弥惣右衛門家、虎明の弟が八右衛門家、栄虎の弟が長大夫家と三代にわたって分家を樹てているのであって、これらは本家をバックアップするという意味を持たされていると見るべきであろう。『わらんべ草』に弟の話が全く出てこないことも不仲説の根拠とされるのだが、(注10)虎明にとってはいつも一緒にいる影のような存在で、取り立てて言うことはなかったと見てもいいように思われる。

他流、鷺流との関係を見ると、前稿でも触れたが、虎清の時代には異流共演が当たり前であったのが寛永五・六年頃から同一流派による上演がふつうになったとされる通り、清虎はあまり鷺流と共演していない。一三年の違いで虎明と比べても少ない。それでも時折あって、仁右衛門は寛永一六年までのが宗玄、万治二年のが次の宗慶である。寛永五年三月二六日、伊達邸での御成能で虎清と宗玄の〈宗論〉に宿屋の役で出て何を思ったのか、知りたいところではある。伝右衛門は初代の正俊了意。晩年に伝右衛門との共演が多いのだが、分家同士というよりも、二人が若い宗家と共に流儀を代表する役者として扱われたと見た方がいいように思われる。

2　上演曲

狂言は三八〇回、一〇六曲の記録が把握できるのだが、よく演じているものをあげると、一〇回以上が、〈花子・薩摩守・麻生・武悪・居杭・粟田口・入間川〉である。清虎に限らず江戸前期によく上演されたものだが、〈花子〉の

Hosei University Repository

シテ一四回は目立つ。初出は寛永一七年、三一歳のことである。〈釣狐〉のシテも八回で、初出は正保三年、三七歳の時。いずれもこれが披きとは限らないが、披きであってもおかしくない年齢である。虎明の場合、〈釣狐〉はアドのみ三回、〈花子〉は五九歳の時の二回しか確認できないので、清虎の方が有力な役者としては一般的なのかと考えられる。他の重い曲について見ると、〈枕物狂〉一回、〈比丘貞〉二回、〈通円〉一回、〈楽阿弥〉二回で、いずれもシテを演じたのはかなり年を取ってからである。〈武悪〉は一〇回以上にあげたが、一二回で、そのうちシテは一一回勤めている。

虎明と比べてもう一つ目立つのは部分演奏が多いことである。曲名の前に小舞は「舞」、語リは「語」を付したが、小舞が七六回、語リが五回ある。小舞かどうか判断に迷うものもあって、本狂言として扱って、備考に「小舞か」としたものもある。[注11] 語リは〈那須与市〉四回、〈鱸庖丁〉一回で、虎明の場合には〈那須与市〉を能〈屋嶋〉の間としてではなく演じた例はない。これらは囃子を主とする催しで演じたものが多く、晩年に多く見られる。そういう催しまで記録したからだという事情もあろうが、一つの傾向とは言えるかと思われる。

ただしいまあげたような点は、しいて虎明と比べればということで、同じ金春座付きであり、「寛文元年書上」を弥右衛門・八右衛門・長大夫の連名で提出しているので当然のことであるが、上演曲のレパートリーは虎明とあまり変るものではない。上演曲の対照表は前稿に載せた通りである。虎明が演じていなくて清虎が演じているのは〈いろは問答〉(伊呂波)・鬼瓦・伯母ケ酒・鴈雁金(小舞)・膏薬煉・舎弟・真奪・すり・政頼・惣八・大黒連歌・宝の槌・通円・土筆・名取川・ぬらぬら・引括・舟船・松楪・薬水・若菜〉の二一曲もあるのだが、このうち〈すり〉はすっぱの出る何かの異曲名、〈薬水〉は〈養老〉の替間、〈松楪〉は「享保九年書上」で「珍敷狂言」とされる以前から演じられていたのだろう。唯一〈若菜〉が大蔵流非所演曲だが、これは虎清がシテのものである。他は「寛文元年書上」にもあってふつうに演じられていた、つまり記録の偏りで虎明の記録がたまたまないものと見ていいだろう。特に八右衛門家

Hosei University Repository

独自の曲というものは認められない。

3　三番三・風流・間狂言

〈三番三〉は二三回、〈千歳〉は一九回勤めている。虎明と比べて〈千歳〉が多いが、弟故としていいだろう。〈千歳〉は当然のことながら、下掛り諸流と付き合うことが多いが、薪能で年預の〈翁〉で〈三番三〉を勤めているのは注目される。虎清や虎明にはなかったことである。

狂言風流は〈松竹の風流〉を承応二年八月一六日に江戸城本丸公家衆饗応能で演じている。これは、『古之御能組』に、

風流　松　八右衛門
　　竹　長太夫

とあって、〈松竹の風流〉とわかるものである。

間狂言は虎清や虎明と比べて少ないが、〈道成寺〉は一〇回勤めている。やはり下掛り諸流の能が多いが、観世流の能にも出てはいる。

これら狂言以外の上演は、有力な役者としてまず順当なものとしていいだろう。

4　奈良での活動

上演曲以外のことでは、まず南都神事能への参勤が多いことが目立つ。初出のものはともかく、江戸での活動が多くなってからも、寛永一九年以降薪能への参勤が頻繁に見られるようになるし、春日若宮祭礼後日能にも参勤してい

Hosei University Repository

る。承応元年の若宮後日能、二年の薪能、三年の薪能には虎明とともに出ている。年預の〈翁〉で〈三番三〉を勤めたのは前述の通りである。

万治三年には、正月に奈良の私宅での狂言初め、田原本の平野邸の能初め、そして二月に薪能に出ており、帰りに浜松に寄り、江戸での催しをはさんで、一一月は若宮後日能、翌年正月の私宅での狂言初め、二月の薪能と続いている。前年の正月の狂言初めも「南都」とはないものの出演者の顔ぶれから見て奈良の私宅でと考えられ、この頃毎年冬は奈良にいたようである。

私宅での狂言初めには長命弥次兵衛や子息の彦五郎も出ているが、他は一門の弟子たちと見ていいのだろう。万治三年分には姓が付されていて、その中に山口次郎兵衛がいる。『奈良曝』に禰宜役者とされている者である。となると、他の梅木姓や山田姓の者もそうなのだろうし、他の年に出る万之允・七之允も中垣姓なのであろう。南都禰宜衆が八右衛門家の弟子となっていたのである。(注12)

そして正保三年三月一七日に、祖父道春の五十年忌追善能を奈良で催していることが注目される。番組を『江戸初期能組控』から引いておこう。

同年同日奈良ニ而道林興行

翁二郎太夫　千歳兵三郎　三番三弥次兵衛

二郎太夫

老松　間兵三郎

徳田や

誓願寺　間庄太郎

Hosei University Repository

二郎太夫弟子
芭蕉　間勘太郎
くれや
舟弁慶　間藤左衛門
こかるや
花月　間兵三郎
二郎太夫
桜川
弟子
海士　間金右衛門弟子
ゑびすびしやもん　八右衛門　庄兵衛　八十郎
入間川　八右衛門　弥次兵衛　四郎兵衛
しうろん　弥次兵衛　金右衛門
よろひ　千之丞　吉兵衛
つりきつね　八右衛門　弥次兵衛
小兵衛
くひ引　四郎兵衛　皆々
庄兵衛

Hosei University Repository

よねいち　　金右衛門　　兵三郎　　皆々

「同年同日」というのはこの前の「正保三年戌三月十七日道春五十年記狂言尽」を受けるもので、同じ日に虎明が江戸で同趣旨の会を催しているのである。「道林興行」即ち虎清の主催とあるが、虎清は既に病臥にあり、実質は清虎主催と考えられる。

翁と脇能などを演じた長命次郎大夫は金剛座のツレ大夫であるが、大蔵家とは縁の深い役者であった。[注13] 他に「徳田や」「くれや」「こかるや」が能を演じているが、表章氏は「演者名索引」（前掲注(11)）でいずれも奈良の町人・商人かとされている。清虎自身は〈夷毘沙門・入間川・釣狐〉の三曲のシテを勤めるが、これが〈釣狐〉の初出である。先にこの時が披きでもおかしくないとしたのは、満を持しての披きであったかと考えたものである。狂言の役者は長命弥次兵衛[注14]・四郎兵衛らだが、庄太郎・千之丞らは他に記録がなく、勘太郎・兵三郎も薪能以外に記録がなく、私宅での狂言初めには見えないが、彼らもやはり奈良住みの弟子たちなのであろう。金右衛門は、貞享版の『能之訓蒙図彙』によって、大蔵姓、京都住みで弥太郎弟子とわかる。

これらのことは清虎が奈良でもかなりの勢力を持っていたことを示すものと考えられる。江戸時代を通じて奈良には八右衛門家の弟子がいたが、それはこうして清虎の時代から既にあったもののようである。

5　仙台藩への参勤

もう一つ目立つのが仙台藩への参勤である。大名の藩邸への参勤が多いことは先にも触れたが、承応三年三月に仙台東照宮の落慶奉祝能で仙台に行って以降特に仙台藩邸での催しが多く、寛文元年には伊達亀千代（後の綱村）の髪置

Hosei University Repository

祝賀の催しなどに出ている。

能楽研究所蔵の伊達家旧蔵資料中に清虎の孫で三代八右衛門となった時虎のものらしい文書が数点ある。(注15) そのうちの「口上之覚」に、

先祖大蔵弥右衛門義貞山様御代御出入扶持方百石被下置相勤申候処ニ隠居之節本家嫡子弥太良ニ相続奉願次男八右衛門次男家別段奉願右弥右衛門ニ被下置候百石之所八右衛門ニ奉願親八右衛門代迄引続キ被下置候

とあり、「先祖書」にも清虎について、

右八右衛門儀親道輪隠居仕候節貞山様江御願申上御出入を二男八右衛門ニ譲リ自是当時迄拙者共御出入仕候

とある。虎清が貞山即ち伊達政宗の頃から仙台藩に出入りし百石の扶持を得ており、それを清虎が継いだというのである。

八右衛門家文書の大蔵松之介の「記」(前掲『大蔵家之記』とは別)に、

家之古書端に

仙台侯ゟ　初代大蔵八右衛門江三百石被下候

寛永二ゟ家元ニ成　百五十石

奥山大学殿ゟ被仰渡　百石ニ成

とある。「初代大蔵八右衛門」は、寛永二年に家元になったというのが不審だが、虎清を言うのだろう(三百石の扶持も不審)。八右衛門家では虎清を初代に数えることがある。(注16) これも右のような事情を伝えるものであろう。弟子で南都禰宜衆の後裔である中垣家が伊達藩抱えになるが、それもこうした関係によるものであろう。

なお『宮城県史14文学芸能篇』(昭和33)の三原良吉氏「能」によれば、仙台藩抱えの高安流脇方の島岡七左衛門は

Hosei University Repository

清虎の次男とのことだが、七左衛門の記録の初出は伊達文庫蔵『能組留』にある享保一四年(一七二九)で、時代が合わない。あるいは成虎の次男なのであろうか。ともあれ八右衛門家の仙台藩との関わりを示すものではある。

こうして清虎は、後の八右衛門家の礎を築いたのだとしていいだろう。

三　没年等

八右衛門家の後継者は成虎である。弘化四年の「由緒書」を引こう。

一先祖　　大蔵八右衛門

厳有院様御代寛文二寅年父跡式被下置相勤元

禄三午年五月廿七日御暇之節白銀五枚頂戴仕

同九子年五月十三日奥御用被　仰付候ニ付加藤

佐渡守殿於御宅誓詞仕宝永七寅年十二月(六トアリ)

十日於南都病死仕候六十歳

○成虎(始メ重治)　法名道栄

これも別筆に傍線を付したが、没年の宝永七年に、「六とアリ」の異説注記があり、この方をとれば、慶安三年生れということになる。ところが、前掲「先祖書」に成虎について、

親四十二之子ニ付姨ノ夫高安家二代目之太郎左衛門ニ名をもらい十七才迄ハ高安彦五郎ト申候其後八右衛門ニ改申候

とある。「姨」は「大蔵家系図」によれば清虎の姉ジロ。清虎が四二歳の厄年に生れたので、ジロの夫、金剛座脇方

Hosei University Repository

の高安家の二代太郎左衛門の養子という形にしたというのである。『近代四座役者目録』によれば二代太郎左衛門の若名は彦太郎であり、以降代々若名を彦太郎と名のっており、彦五郎の名の由来もわかるのだが、清虎が四二歳の時は慶安四年。行年六〇が正しければ、没年はやはり宝永七年ということになる。

記録では明暦二年の薪能に出ている「八右衛門子」、万治三年以後に現れる彦五郎がそれである。そして寛文二年に家督を相続したとあるが、これは推定した清虎の没年と一致するので、清虎が亡くなったためと考えていいだろう。

清虎の上演記録は寛文元年一〇月までずっと続いたのが中絶している。『古之御能組』が成虎が子息亀之介(後の時虎)とともに出た貞享三年の薪能の記録を除いてここまでしかないということもあるのだが、清虎の活動の終りではないかとも考えられよう。そしてその後二回、翌年と翌々年の春日若宮祭礼後日能に記録があるのだが、あやしいということで「存疑」とした。薪能の番組で成虎が八右衛門の名で記録されるのは寛文九年からなので、成虎でもない。実は虎明の最後の記録も寛文元年の若宮祭礼後日能で、江戸の舞台に立たなくなってからかなり経ってのことであって、若宮祭礼の記録自体が実際に行われたものの記録なのかどうかあやしいように思われる。

寛文二年に亡くなったとなると、兄虎明と同じ年である。虎明は一月一三日、清虎は八月五日、江戸前期の大蔵流をひっぱってきた兄弟が相次いで亡くなって、一つの時代が終ったのであろう。亡くなったのは「大蔵家系図」には京都でとあったが、恐らく由緒書の類の通り奈良で、法名は道寿、菩提寺は金躰寺とある。納院町のすぐ近くの寺である。

付　関係文書類

清虎自身は書物や文書を残していないが、既に言及したように、虎清の代筆をしたものや譲り受けたものがけっこ

Hosei University Repository

うたくさんある。これを一覧しておこう。

Ⅰ　代筆文書類

1　式三番間狂言

法政大学能楽研究所鴻山文庫大蔵八右衛門家文書。式三番・狂言・間狂言の伝授事。「寛永九年申卯月廿七日　大蔵弥右衛門虎清(花押)／大蔵八右衛門にか、せ申候」とあり、全部が清虎の代筆。

2　間・風流伝書

八右衛門家文書。間狂言・狂言風流の心得を記す。「寛永拾六暦卯ノ十一月吉日　大蔵弥右衛門(黒印)虎清(花押)／同八右衛門殿参」の奥書があるが、その後に同年一二月二六日の年記の奥書が震える手跡であり、本文全部と一つ目の年記までが清虎の代筆と考えられる。

3　狂言間のかうしやく十二札ノ内のちよ書のうつし

八右衛門家文書。大蔵虎明の狂言本七冊と「万集類」の各冊にある序文と、それら八冊と間狂言本四冊の各冊にある奥書の写し。「正保二年酉ノ正月吉日(黒印)／大蔵道倫虎清(花押)／同八右衛門殿参」とあるが、全部が清虎の代筆。黒印を押し、「此印弥右衛門所へハしゆ印也」の注記があるが、虎明本には朱印が押してある。虎明本の奥書は虎清が書き加えたというもので、従来虎明本の注釈類等では疑わないようだが、虎清筆でないことは明らかである。笹野堅氏は「古本能狂言・間につきての研究―大蔵流本―」(『国文学研究』8、昭和12・6)で虎明の代筆かとされている。筆跡による判断は難しいが、清虎の代筆の可能性もあろう。

4　狂言第一之心持之大事

Hosei University Repository

八右衛門家文書。「三界唯一心」と四門の講釈の相伝状。正保二年一一月七日の御成の際に将軍にほめられたことへの「ほうひ」として相伝すると言う。「(黒印)正保二年十一月廿七日　大蔵弥右衛門入道仙渓道倫虎清(花押)／同八右衛門殿参」の奥書があるが、全部が清虎の代筆。

5　大蔵虎清本

八右衛門家文書。狂言本。奥書に「今程たんを煩筆之たて所不覚候故おく書代筆に書せ申候間」とあり、正保三年五月吉日年記の奥書と本文末尾の和歌二首のみ清虎の代筆。

Ⅱ　被譲渡文書類

6　大蔵虎明譲り受け状

八右衛門家文書。兄虎明の家督相続の際の財産の譲り受け状。「寛永拾壱年甲戌五月廿八日　大蔵弥太郎虎時(花押)／大蔵弥右衛門様／同八右衛門殿まいる」とある。

7　長びつに入日記

八右衛門家文書。寛永一四年一二月二四日・同一八年四月吉日に三つの長びつに入れた銀子等を八右衛門に譲り渡すとの状。「大蔵弥右衛門(黒印)虎清(花押)／右之金銀大蔵八右衛門にゆつり申事実正也」とある。

8　習末代之証文之書物之事

八右衛門家文書。1の相伝状。「寛永拾七年三月廿六日　大蔵弥右衛門(黒印)虎清(花押)／同八右衛門殿まいる」とある。

9　覚

山本東次郎家蔵。狂言の心得・教えを記した狂言論書。「寛永拾八年巳の三月三日　大蔵弥右衛門(黒印)虎清(花

Hosei University Repository

押）／同八右衛門殿まいる」の奥書がある。

10　ゆいごんゆつり状之事

八右衛門家文書。にたりの面の譲り状。「寛永弐拾年ひつしの二月十四日　大蔵弥右衛門（黒印）虎清（花押）／同八右衛門殿まいる」とある。

1・3・4・6・7・8・10は前掲「大蔵八右衛門の狂言伝書」に翻刻、5は古川久氏編『古本狂言二種』（昭和39）等に翻刻がある。9は小田幸子氏が「大蔵虎清狂言伝書」として翻刻（『芸能の科学』30、平成15・3）されている。

注

（1）「三界唯一心」は『華厳経』に由来し、唯識教学の核心を表す句とされ、能〈柏崎〉などにも少し形を変えて引かれる。四門は実相の理に悟入するという四つの門だが、これは大蔵虎清本の〈泣尼〉の出家の説法にそのまま引かれる。なお虎明本ではこの文句を含む説法を替の演出とし、説法が下手だという名のりと相違するから無用とする。〈泣尼〉は江戸後期に八右衛門派で上演されるようになり、明治以降大蔵流現行曲となるが、これは虎光本や山本東本等では引かない。

（2）ただし、笹野氏は「寛文十二年八月十五日五十歳で京都に卒した」とされており、「大蔵家系図」とは別の伝承によられたものらしい。

（3）八右衛門家文書中の、八右衛門家最後の当主となった大蔵松之介の『大蔵家之記』に、七代八右衛門虎光の代に「虎光由縁の者二人」によって失われたとある。

（4）明暦二年五月二六日の記録に『甲子夜話』を引くが、これは続編巻五一に古書によるとするものである。

Hosei University Repository

(5) 前稿では清虎の上演記録の回数を五四〇回(狂言三七六回一〇六曲)としたが、その後の調査で若干増えたものである。ただし上演曲数は変らず、虎清・虎明・清虎の上演曲を対照させた「上演曲目対照表」は変らない。ただし、後述の判断により、清虎所演分の〈鱸庖丁〉には「語」を付加、〈ぬらぬら〉の「舞」を削除する。

(6) 小山弘志氏「伊達文庫「古之御能組」と江戸初期の能・狂言」(『東京大学教養学部人文科学科紀要』39、74。昭和41・12、57・3)参照。

(7) 彼らは虎明シテのアドを勤めることもあり、必ずしも清虎の弟子とは言えないが、行動を共にすることが比較的多い。

(8) 長大夫は初代武則。長大夫については、拙稿「大蔵長大夫家考」(『能楽研究』27、平成15・3)参照。

(9) 米倉利昭氏『わらんべ草(狂言抄)研究』(昭和48)など。

(10) これについて、私自身かつて「大蔵虎明『わらんべ草』」(『国文学解釈と鑑賞』昭和60・5、『中世史劇としての狂言』平成9に収録)で虎明に清虎への対抗意識があったとしたことがあるが、そこまで見ることもないだろう。

(11) 〈三人夫〉二回、〈鞍馬参・松楪・餅酒〉各一回。表章氏は「江戸初期能番組七種」の「演者名索引」(『能楽研究』24、平成12・3)でいずれも小舞とする。寛文元年九月二三日の有馬松千代邸饗応囃子の〈ぬらぬら〉も「演者名索引」は小舞とする。終曲部のみの上演はありうるが、小舞とは考えにくい。

(12) 宮本圭造氏「南都禰宜衆の演能活動」(『芸能史研究』138～140、平成9・7～10・1。『上方能楽史の研究』平成17に収録)参照。

(13) 長命次郎大夫家と大蔵家の縁が深かったことについては、表章氏「長命猿楽考」(『日本歴史の構造と展開』昭和58)に詳しい。

(14) 長命弥次兵衛の記録は寛永元年から寛文一〇年まで五七年にわたって見える。「演者名索引」(前掲)は二世代分と見てこの催しから二代目のものとされるが、〈釣狐〉の相手はベテランにさせたと見ていいだろうし、この後も特に変化は認めら

Hosei University Repository

れず、一代と見ておきたい。なお寛文一〇年の記録では徳右衛門になっており、江戸初期に虎清らとともに活動した長命徳右衛門(若名甚六)の後裔なのであろう。

(15)　「口上之覚」「先祖書」については注(6)の小山氏稿に既に触れられている。他に所蔵の面、特ににたりの面について記す「作面覚」と虎清の「ゆいごんゆつり状之事」(後掲文書類の10)の写しがある。なお「口上之覚」は『仙台市史資料編9　仙台藩の文学芸能』(平成20)に翻刻されている(鴻山文庫蔵とあるが誤り)。

(16)　たとえば、「享保六年書上」は三代時虎が提出したものだが、八右衛門家歴代を「曽祖父」の虎清から書き出している。また七代虎光は『狂言不審紙』跋文で「八世」と署名している。

【付記】本稿は平成一七～二〇年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究B(1))による研究「地方諸藩の能楽資料に基づく、都市と能楽の総合的研究」の成果の一部である。

Hosei University Repository

大蔵清虎上演記録一覧

凡例的なことども

年　西暦で示す。

月　閏月には「ウ」を付す。

日　不明の場合は「＊」とする。

演目　能には「能」、小舞には「舞」、語リには「語」を付す。

役名　千歳・三番三は不記。

他　役がシテの場合は、アドの役者名を記す。
役がアドの場合は、シテ・他のアドの役者名を記す。
千歳・三番三の場合は翁の役者名を記す。
替間は狂言として扱う。

備考　催しの場所・趣旨等、その他の注を記す。

資料（略号一覧）

薪　薪能番組（『日本庶民文化史料集成』三）

古　古之御能組（宮城県図書館伊達文庫蔵）

控　江戸初期能組控（般若窟文庫蔵）

加賀御成　将軍様相国様御成之次第（金沢市立玉川図書館近世史料館加越能文庫蔵）

行幸仙洞　行幸・仙洞・日光御能組（観世文庫蔵）

日光　日光御社参御祝儀御能番組（観世文庫蔵）

寛永　寛永雑記（能研蔵フィルム）

若宮　春日若宮祭礼記（『能楽研究』16）

宣　将軍宣下能目録（能研観世新九郎家文庫蔵）

明暦　明暦堺七堂狂言芝居（山本東次郎家蔵）

柳営　柳営日次記（内閣文庫マイクロフィルム版）

甲子　甲子夜話（東洋文庫）

Hosei University Repository

23　大蔵清虎上演年譜考

大蔵清虎上演記録

年	月	日	名前	演	役名	他	備考	資料
1622	2	10	同弟	翌入	アド	大倉弥太郎	薪能初日南大門能	薪
1624	1	28	八右衛門	今参	アド	弥右衛門・弥太郎	紀伊中納言頼宣邸御成済後宴能	古7
1624	6	21	八右衛門	今参	アド	弥右衛門・弥次兵衛	江戸城本丸奥舞台能	古7
1624	6	21	八右衛門	薩广守	シテ	弥右衛門・弥二兵衛	同上	古7
1624	8	17	八右衛門	舞三人夫キリ	アド	弥右衛門・弥太郎	将軍家光上野寛永寺御成囃子	古7
1624	9	6	八右衛門	鼻取相撲	アド	弥右衛門・弥太郎	江戸城本丸奥舞台下掛り能	古7
1624	9	20	八右衛門	舞もちさけキリ	アド	弥右衛門・弥太郎	将軍家光金地院御成囃子	古7
1624	12	4	八右衛門	今参	アド	弥右衛門・弥太郎	大御所秀忠本丸御成能	古7
1625	2	5	八右衛門	太刀奪	アド	弥右衛門・弥太郎	大御所秀忠駿河大納言忠長邸御成能	古7
1625	3	8	八右衛門	庭鳥むこ	シテ	弥右衛門・弥太郎他	大御所秀忠尾張中納言義直邸御成能	古7
1625	4	8	八右衛門	二人大名	アド	弥太郎・弥右衛門	江戸城西丸能	古7
1625	5	28	八右衛門	花盗人	アド	弥太郎・弥右衛門他	大御所秀忠藤堂和泉守高虎邸御成能	古7
1625	6	29	八右衛門	鐘	シテ	弥右衛門・弥太郎	藤堂和泉守高虎邸御成済後宴能	古7
1625	8	9	八右衛門	口まね	アド	弥右衛門・権之丞	大御所秀忠本丸御成能	古7
1625	11	21	八右衛門	いく井	シテ	弥右衛門・弥太郎	江戸城本丸公家門跡等饗応能	古7
1627	2	27	八右衛門	文相撲	アド	弥右衛門・弥太郎	大御所秀忠本丸御成能	古7
1627	3	2	八右衛門	能玉井／貝尽し	アド	弥太郎	大御所秀忠駿河大納言忠長邸御成能、貝尽し不記	古7
1627	3	2	八右衛門	音曲むこ	アド	弥太郎・弥右衛門他	同上	古7
1627	3	21	八右衛門	引敷むこ	アド	弥右衛門・弥太郎他	江戸城本丸諸大名饗応能	古7
1627	4	16	八右衛門	宗論	アド	弥右衛門・弥太郎	江戸城本丸公家衆饗応能	古7
1627	4	22	八右衛門	骨皮	アド	弥右衛門・権之丞他	江戸城西丸公家衆饗応能	古7
1627	5	3	八右衛門	庭鳥むこ	アド	弥太郎・弥右衛門他	大御所秀忠尾張大納言義直邸御成能	古7
1627	5	3	八右衛門	きかす座頭	アド	弥太郎・弥二兵衛	同上	古7
1627	5	14	八右衛門	磁石	アド	弥右衛門・弥太郎	大御所秀忠水戸中納言頼房邸御成能	古8
1627	6	28	八右衛門	朝生	アド	弥右衛門・弥太郎他	将軍家光水戸中納言頼房邸御成能、寛永は7月3日	古8
1627	7	16	八右衛門	庖丁むこ	アド	弥太郎・権之丞他	永井信濃守尚政邸稽古能、原5月6日、月日は寛永	古7
1627	7	16	八右衛門	三人片輪	アド	弥右衛門・弥太郎他	同上	古7
1627	9	10	八右衛門	引敷むこ	アド	弥太郎・弥右衛門他	大御所秀忠本丸御成能	古8
1627	9	22	八右衛門	千歳		今春七郎	江戸城本丸公家門跡等饗応能	古8
1627	9	22	八右衛門	あさう	アド	弥右衛門・弥太郎他	同上	古8
1627	9	27	八右衛門	千歳		今春七郎	江戸城西丸公家門跡等饗応能	古8
1627	9	27	八右衛門	鍋八枹	アド	弥右衛門・弥太郎	同上	古8
1627	10	12	八右衛門	八幡前	アド	弥太郎・弥右衛門他	大御所秀忠駿河大納言忠長邸御成能	古8
1627	10	12	八右衛門	腹不立	アド	弥太郎・弥右衛門	同上、御所望	古8
1627	10	22	八右衛門	千歳		今春七郎	将軍家光駿河大納言忠長邸御成能	古8
1627	10	29	八右衛門	千歳		今春七郎	大御所秀忠藤堂和泉守高虎邸御成能	古8
1627	10	29	八右衛門	鼻取相撲	アド	弥右衛門・弥太郎	同上	古8
1627	11	3	八右衛門	千歳		今春七郎	将軍家光藤堂和泉守高虎邸御成能	古8
1627	11	3	八右衛門	ぶす	アド	弥右衛門・弥太郎	同上	古8
1628	2	10	同子	狂言	アド	弥右衛門	薪能二日目南大門能	薪
1628	3	14	八右衛門	千歳		今春七郎	将軍家光紀伊大納言頼宣邸御成能	古8
1628	3	14	八右衛門	あさう	アド	弥右衛門・弥太郎他	同上	古8
1628	3	18	八右衛門	鼻取相撲	アド	弥右衛門・弥太郎	大御所秀忠駿河大納言忠長邸御成能	古8
1628	3	21	八右衛門	千歳		七郎	金春七郎浅草勧進能初日	控
1628	3	21	八右	あさう	アド	弥右・弥太・喜左	同上	控
1628	3	21	八右	三人かたは	アド	弥太・市兵衛・弥二	同上	控
1628	3	21	八右	たちはい	シテ	弥太・弥二	同上	控
1628	3	22	八右衛門	ゑひすひしやもん	アド	弥太・市兵衛	金春七郎浅草勧進能二日目	控
1628	3	22	八右	ちしやく	シテ	弥二・市兵衛	同上	控
1628	3	23	八右	したうはうかく	アド	弥右・喜左	金春七郎浅草勧進能三日目	控
1628	3	23	八右	二人太名	シテ	弥太・弥二	同上	控
1628	3	24	八右	三番神		七郎	金春七郎浅草勧進能四日目	控
1628	3	24	八右	はうちやうむこ	シテ	弥右・弥太	同上	控
1628	3	24	八右	ちきりき	アド	弥太・喜左	同上	控
1628	3	26	八右衛門	宗論	アド	弥右衛門・仁右衛門	将軍家光伊達陸奥守政宗邸御成能	古8
1628	3	28	八右衛門	随方角	アド	弥右衛門・弥太郎	将軍家光西丸御成能、原秀忠本丸御成	古8
1628	3	29	大蔵八右衛門	三番三		桜井八右衛門	伊達陸奥守政宗邸御成済後宴能	古8
1628	3	29	八右衛門	水懸むこ	アド	弥右衛門・喜左衛門	同上	古8
1628	3	29	八右衛門	茶つほ	シテ	弥二兵衛・喜左衛門	同上	古8
1628	4	3	八右衛門	千歳		今春七郎	大御所秀忠水戸中納言頼房邸御成能	古8
1628	4	9	八右衛門	悪坊	アド	弥右衛門・弥太郎	将軍家光水戸中納言頼房邸御成能	古8
1628	5	19	八右衛門	腹不立	アド	熊蔵・弥太郎	江戸城本丸公家門跡衆饗応能	古8
1628	6	11	八右衛門	千歳		今春七郎	大御所秀忠尾張大納言義直邸御成能	古8
1628	6	11	八右衛門	庖丁むこ	アド	弥太郎・弥右衛門他	同上	古8
1628	6	11	八右衛門	腹不立	アド	熊蔵・弥太郎	同上	古8
1628	8	9	八右衛門	あさう	アド	弥右衛門・弥太郎他	将軍家光尾張大納言義直邸御成能	古8
1628	8	9	八右衛門	二人大名	シテ	弥太郎・弥右衛門	同上	古8
1628	9	26	八右衛門	千歳		今春七郎	大御所秀忠本丸御成能	古8
1628	9	26	八右衛門	庭鳥むこ	アド	弥右衛門・弥太郎他	同上	古8
1629	4	29	八右衛門	千歳		今春七郎	秀忠加賀中納言利常邸御成能、注弥右衛門子	加賀御成
1629	7	23	八右	千歳		七大夫	北七大夫浅草勧進能初日	控
1629	7	23	八右	能高砂	アイ	七大夫	同上	控
1629	7	23	八右	あさう	アド	弥太・喜左・又兵衛	同上	控
1629	7	23	八右	はなとりすまふ	アド	弥右・弥太	同上	控
1629	7	24	八右	三番三		七大夫	北七大夫浅草勧進能二日目	控
1629	7	24	八右	ひつしきむこ	シテ	弥太・喜左・四郎	同上	控
1629	7	25	八右	三人かたは	アド	熊蔵・喜太・長五郎	北七大夫浅草勧進能三日目	控

Hosei University Repository

年	月	日	名前	演	役名	他	備考	資料
1629	7	25	八右	したうはうかく	シテ	弥太・弥二	同上	控
1629	7	25	八右	たちはい	シテ	弥二・喜左	同上	控
1629	7	26	八右	三番三		七大夫	北七大夫浅草勧進能四日目	控
1629	7	26	八右	いもし	アド	熊蔵・弥太	同上	控
1629	7	26	八右	きかすざとう	シテ	弥二・四郎	同上	控
1629	7	27	八右	しせんせき	アド	弥太	北七大夫浅草勧進能五日目	控
1629	7	27	八右	なとり川	アド	熊蔵	同上	控
1630	5	18	八右	能高砂	アイ	金剛	金剛大夫浅草勧進能初日	控
1630	5	18	八右	たからのつち	アド	熊蔵・喜太	同上	控
1630	5	18	八右	さるざとう	アド	弥二・市兵衛	同上	控
1630	5	19	八右衛門	なへ八はち	シテ	弥二・弥太	金剛大夫浅草勧進能二日目	控
1630	5	19	八右	連哥盗人	アド	弥太・市兵衛	同上	控
1630	5	20	八右衛門	三番三		金剛	金剛大夫浅草勧進能三日目	控
1630	5	20	八右	能竹生嶋	アイ	金剛	同上	控
1630	5	20	八右	すみぬり	アド	弥太・弥二兵衛	同上	控
1630	5	20	八右	能道成寺	アドアイ	金剛	同上	控
1630	5	21	八右	茶つほ	シテ	市兵衛・弥二	金剛大夫浅草勧進能四日目	控
1631	8	22	八右衛門	三番三		今春七郎・金剛右京	大御所秀忠病気平癒祈願下掛り浅草寺立願能、立合	控
1631	8	22	八右衛門	やぐすい	アド	弥右衛門・喜左衛門	同上	控
1631	8	22	八右衛門	能花月	アイ	右京	同上	控
1633	4	11	八右衛門	千歳		七郎	江戸城公家衆饗応能	控
1633	6	22	八右	末広	アド	弥右・弥太	将軍家光江戸城西丸御成能	控
1633	6	22	八右	比丘定	アド	弥右・喜左	同上	控
1633	6	22	八右	薩广守	アド	弥太・四郎	同上	控
1633	6	25	八右	やわたのまへ	シテ	弥太・喜左・喜介	北七大夫深川勧進能初日	控
1633	6	25	八右	かなづ	アド	長吉・弥太・皆々	同上	控
1633	6	25	八右	能百万	アイ	七大夫	同上	控
1633	6	26	八右	三番三		七大夫	北七大夫深川勧進能二日目	控
1633	6	26	八右	せんし物	シテ	弥二・皆々	同上	控
1633	6	26	八右	したうはうかく	アド	弥太・喜太	同上	控
1633	7	18	八右	さつまのかみ	シテ	弥太・喜太	北七大夫深川勧進能三日目	控
1633	7	18	八右	能花月	アイ	十大夫	同上	控
1633	7	18	八右	ふあく	シテ	弥右・弥太	同上	控
1633	7	19	八右	能白髭／道者	アド	弥二	北七大夫深川勧進能四日目、道者不記	控
1633	7	19	八右	三人かたは	シテ	弥二・喜太・四郎兵衛	同上	控
1633	7	19	八右	あわた口	アド	弥太・弥二	同上	控
1633	7	20	八右	ほねかわ	シテ	弥二・皆々	北七大夫深川勧進能五日目	控
1633	7	20	八右	いくゐ	シテ	弥太・弥二	同上	控
1633	7	20	八右	能藤栄	アイ	七大夫	同上	控
1634	9	1	八右衛門	いるま川	アド	弥右衛門・弥太郎	仙洞御所観世喜多立合能初日	控
1634	9	1	八右	あくはう	アド	弥右衛門・弥太郎	同上	控
1634	9	1	八右	さつまのかみ	シテ	弥右・喜太	同上、霊上はシテ大蔵弥右衛門	控
1634	9	2	八右衛門	千歳		七大夫	仙洞御所観世喜多立合能後日	控
1634	9	2	八右	三人かたわ	アド	弥右・弥太・弥次	同上	控
1634	9	2	八右衛門	なかみつ	アド	弥太・権丞	同上	控
1635	6	25	八右衛門	いるま川	アド	弥右衛門・弥太郎	江戸城本丸能	控
1636	4	25	大倉八右衛門	三番三		金春八左衛門	東照権現宝前能二日目	行幸仙洞
1636	5	10	八右衛門	きんや	アド	弥右衛門・弥太郎	江戸城日光祭礼済祝賀公家門跡諸大名饗応能	控
1636	5	10	八右衛門	わかな	アド	弥右衛門・喜左衛門他	同上	控
1636	5	11	八右衛門	千歳		今春	江戸城日光祭礼済祝賀旗本出家衆饗応能	控
1636	5	11	八右衛門	能竹生嶋	アイ	今春	同上	控
1636	5	11	八右衛門	かに山ふし	アド	弥右衛門・喜左衛門	同上	控
1636	5	11	大蔵八右衛門	千歳		金春八左衛門	江戸城日光御社参御祝儀能	日光
1636	7	11	八右衛門	あかゝり	シテ		大田備中守資宗邸栄生院饗応能	寛永
1637	7	16	八右衛門	三人夫	アド	弥右衛門・喜左衛門	江戸城西丸略式能、小舞か	古9
1637	7	16	八右衛門	くらま参	アド	弥右衛門	同上、小舞か	古9
1637	7	16	八右衛門	まつゆづりは	シテ	喜左衛門	同上、小舞か	古9
1637	7	17	八右衛門	能高砂	ワキツレ	太郎左衛門	江戸城西丸狂い能	古9
1637	9	14	八右衛門	飛越	アド	弥右衛門	将軍家光春日局邸御成能	古9
1637	9	16	八右衛門	宝乃槌	アド	弥右衛門	将軍家光柳生但馬守邸御成能	古9
1637	9	18	八右衛門	引歌むこ	アド	弥右衛門・喜左衛門他	江戸城西丸慰み能	古9
1637	9	18	八右衛門	茶つほ	シテ	弥次兵衛・八兵衛	同上	古9
1637	10	8	八右衛門	楽阿弥	アド	弥右衛門・弥次兵衛	松平越中守定綱邸能	古9
1637	10	8	八右衛門	能舟弁慶	アイ	北七大夫	同上	古9
1637	10	8	八右衛門	いくゐ	アド	弥右衛門・仁右衛門	同上	古9
1639	4	6	八右衛門	千歳		北七大夫	春日局邸慰み能	古9
1639	4	6	八右衛門	二千石	アド	弥太郎	同上	古9
1639	4	6	八右衛門	太刀奪	シテ	弥次兵衛・作十郎	同上	古9
1639	4	8	八右衛門	薩摩守	シテ	弥太郎・弥次兵衛	太田備中守資宗邸饗応能	古9
1639	4	8	八右衛門	能百万	アイ	金剛右京	同上	古9
1639	4	17	八右衛門	夷毘沙門	アド	弥太郎・弥次兵衛	江戸城二の丸慰み能	古9
1639	4	17	八右衛門	文山立	シテ		同上	古9
1639	4	*	八右衛門	粟田口	アド	弥太郎・右衛門太郎	池田相模守光仲邸喜多流能	古9
1639	4	*	八右衛門	柿山伏	シテ	吉左衛門	同上	古9
1639	4	26	大蔵八右衛門	三番三		桜井八右衛門	伊達陸奥守忠宗邸祝賀能	古9
1639	4	26	八右衛門	宝の槌	シテ	吉左衛門・弥次兵衛	同上	古9
1639	4	26	八右衛門	犬山伏	シテ		同上	古9
1639	4	29	八右衛門	福の神	アド	弥太郎・喜左衛門	江戸城阿部豊後守忠秋茶事能か、月日は実紀	古9
1639	5	12	八右衛門	福乃神	シテ	四郎兵衛・甚太左衛門	中川内膳正久盛邸祝賀能	古9

Hosei University Repository

25　大蔵清虎上演年譜考

年	月	日	名前	演	役名	他	備考	資料
1639	5	12	八右衛門	入間川	シテ	四郎兵衛・九右衛門	同上	古9
1639	5	12	八右衛門	腹不立	シテ	四郎兵衛・甚太左衛門	同上	古9
1639	5	21	八右衛門	栗焼	アド	仁右衛門	江戸城浅野光晟酒井忠勝茶事囃子	古9
1639	6	8	八右衛門	あさう	アド	弥太郎・四郎兵衛他	前田筑前守光高邸祝賀能	古9
1639	6	8	八右衛門	宗論	アド	弥太郎・作十郎	同上	古9
1639	6	8	八右衛門	あさいな	シテ	喜左衛門	同上	古9
1639	6	8	八右衛門	福の神	シテ	弥太郎・喜左衛門	同上	古9
1639	6	24	八右衛門	蚊相撲	アド	弥太郎・弥次兵衛	堀田加賀守正盛邸天海僧正饗応能	古9
1639	6	24	八右衛門	いくゐ	アド	仁右衛門・弥太郎	同上	古9
1639	7	10	八右衛門	庖丁むこ	シテ	弥二兵衛・四郎兵衛他	江戸城二の丸堀田加賀守正盛茶事能	古9
1639	7	10	八右衛門	ふあく	シテ	伝右衛門・喜左衛門	同上	古9
1639	7	12	八右衛門	昆布売	シテ	弥次兵衛	江戸城西丸板倉周防守重宗茶事能	古9
1639	7	17	八右衛門	二千石	アド	弥太郎	江戸城二の丸朽木民部少輔稙綱茶事能	古9
1639	8	17	八右衛門	口まね	シテ	喜左衛門・弥次兵衛	江戸城二の丸上野僧正饗応能	古9
1639	9	17	八右衛門	能三井寺	アドアイ	日向守	江戸城二の丸慰み能	古9
1639	9	17	八右衛門	土雅	シテ	弥次兵衛	同上	古9
1639	9	23	八右衛門	くらま参	アド	弥太郎	尾張徳川家婚礼祝賀能初日	古9
1639	9	23	八右衛門	能藤栄	オモアイ	金剛右京	同上	古9
1639	9	23	八右衛門	栗焼	シテ	作十郎	同上	古9
1639	9	25	八右衛門	三番三		金春八左衛門	尾張徳川家婚礼祝賀能後日	古9
1639	9	25	八右衛門	鎧	シテ	弥太郎・弥次兵衛	同上	古9
1639	9	25	八右衛門	かうやくねり	アド	長吉	同上	古9
1639	9	29	八右衛門	舞三人夫	シテ		江戸城二の丸略式演能	古9
1639	10	4	八右衛門	薩摩守	シテ	弥太郎・四郎兵衛	江戸城二の丸狂言尽	古9
1639	10	4	八右衛門	鴈盗人	アド	弥太郎・弥次兵衛	同上	古9
1639	10	4	八右衛門	いくゐ	シテ	弥太郎・喜左衛門	同上	古9
1639	10	5	八右衛門	茶つぼ	シテ	喜左衛門・弥二兵衛	江戸城二の丸能	古9
1639	10	5	八右衛門	能三井寺	オモアイ	七大夫	同上	古9
1640	4	24	大倉八右衛門	今まいり	シテ		東照権現宝前能	行幸仙洞
1640	4	25	大倉八右衛門	三番三		金春八左衛門	東照権現宝前能二日目	行幸仙洞
1640	4	25	八右衛門	やはたのまへ	シテ		同上	行幸仙洞
1640	9	16	八右衛門	夷毘沙門	シテ	弥次兵衛・万之丞	伊達陸奥守忠宗邸能	古9
1640	9	16	八右衛門	花子	シテ	四郎兵衛・万之丞	同上	古9
1640	9	16	八右衛門	入間川	シテ	弥二兵衛・四郎兵衛	同上	古9
1640	9	16	八右衛門	能舟弁慶	アイ	忠宗	同上	古9
1640	11	29	八右衛門	三番三		八左衛門	江戸城二の丸出家衆饗応能	寛永
1641	4	25	八右衛門	連歌盗人	アド	弥太郎・喜左衛門	江戸城本丸公家衆饗応能	古9
1641	5	10	八右衛門	千歳		今春八左衛門	江戸城本丸諸大名饗応能	古9
1641	5	10	八右衛門	さつまの守	シテ	喜左衛門	同上	古9
1641	5	10	八右衛門	さつまの守	シテ		江戸城本丸諸大名饗応能	寛永
1641	5	15	八右衛門	文山立	シテ	喜左衛門	江戸城西丸堀田加賀守正盛茶事能	古9
1641	6	13	八右	あさう	シテ	四郎兵衛・太兵衛他	八丁堀朗清寺喜多父子法楽能	控
1641	9	9	八右衛門	いく井	アド	弥太郎	江戸城本丸若君誕生祝賀能初日	寛永
1641	9	16	八右衛門	三番三		大蔵正左衛門	奥平奥作守忠昌邸祝賀能	古9
1641	9	16	八右衛門	能賀茂／御田	シテ		同上	古9
1641	9	16	八右衛門	あさう	シテ	弥次兵衛・四郎兵衛他	同上	古9
1641	9	16	八右衛門	いくゐ	シテ	弥次兵衛・四郎兵衛	同上	古9
1641	9	16	八右衛門	能道成寺	オモアイ	正左衛門	同上	古9
1641	9	16	八右衛門	花子	シテ	弥次兵衛・四郎兵衛	同上	古9
1641	9	17	八右衛門	犬山伏	アド	弥太郎・四郎兵衛	江戸城二の丸若君誕生祝賀能	古9
1641	9	17	八右衛門	能三井寺	オモアイ	日向守	同上	古9
1641	9	19	八右衛門	三番三		今春八郎	島津薩摩守光久邸老中招請能	古9
1641	9	19	八右衛門	能道成寺	オモアイ	今春八郎	同上	古9
1641	9	23	八右衛門	きかず座頭	シテ	喜左衛門	松平新太郎光政邸振舞能	寛永
1641	10	6	八右衛門	飛越	シテ	弥次兵衛	伊達陸奥守忠宗邸若君誕生祝賀老中招請能	古9
1641	10	8	八右衛門	庖丁むこ	シテ	喜左衛門・四郎兵衛他	伊達陸奥守忠宗邸老中招請後宴能	古9
1642	2	8	八右衛門	あさう	シテ	弥二兵衛・四郎兵衛他	薪能初日南大門能、原寛永18年、旧記により訂	古2
1642	2	8	大倉八右衛門	あさう	シテ	弥次兵衛	薪能初日南大門能、原寛永18年、旧記により訂	薪
1642	2	9	八右衛門	二人大名	シテ	四郎兵衛・弥二兵衛	薪能二日目南大門能	古2
1642	2	14	八右衛門	三番三		年用	薪能三日目御社上り能	古2
1642	2	14	八右衛門	萩大名	シテ	弥二兵衛・四郎兵衛	同上	古2
1642	9	29	八右衛門	さつまの守	シテ		丹羽左京亮光重邸振舞能	寛永
1643	7	18	同八右衛門	ゑひすひしやもん	アド	大倉弥太郎	江戸城本丸朝鮮人御馳走能	行幸仙洞
1644	2	8	八右衛門	墨ぬり	シテ	弥二兵衛・四郎兵衛	薪能初日南大門能	古2
1644	2	11	八右衛門	三番三		年用	薪能三日目御社上り能	古2
1644	2	12	八右衛門	能自然居士	アイ	今春八左衛門	薪能四日目南大門能	古2
1644	2	13	八右衛門	花子	シテ	弥二兵衛・四郎兵衛	薪能五日目南大門能	古2
1644	2	14	八右衛門	犬山伏	シテ	四郎兵衛・庄兵衛	薪能六日目南大門能	古2
1644	2	14	八右衛門	能藤永	オモアイ	八郎	同上	古2
1645	11	3	八右衛門	千歳		今春	大納言家綱井伊掃部頭直孝邸御成能	控
1645	11	3	八右衛門	福のかみ	アド	弥右衛門・喜左衛門	同上	控
1646	3	17	八右衛門	ゑひすひしやもん	シテ	庄兵衛・八十郎	南都虎清興行道春五十年忌追善能	控
1646	3	17	八右衛門	入間川	シテ	弥次兵衛・四郎兵衛	同上	控
1646	3	17	八右衛門	つりきつね	シテ	弥次兵衛	同上	控
1650	2	11	大倉八右衛門	鬼清水	シテ		薪能二日目南大門能	薪
1650	2	12	大倉八右衛門	昆布売	シテ		薪能三日目御社上り能	薪
1650	10	20	八右衛門	かんぬす人	アド	弥太郎・弥次兵衛	家綱西丸わたまし祝賀公家衆饗応能	控
1650	11	28	八右衛門	八幡聟	シテ	弥次兵衛・四郎兵衛	春日若宮祭礼後日能	若宮
1651	2	13	八右衛門	ぼうちぎり木	シテ	弥次兵衛・次兵衛	薪能二日目南大門能	薪

Hosei University Repository

年	月	日	名前	演	役名	他	備考	資料
1651	8	22	八右衛門	いくゐ	アド	弥右衛門・弥太郎	家綱将軍宣下能初日	控
1651	9	5	大蔵八右衛門	千歳		金春大夫元信	家綱将軍宣下能二日目	宣
1651	9	22	大蔵八右衛門	三番叟		金春大夫元信	家綱将軍宣下能三日目	宣
1651	11	8	八右衛門	たちばい	アド	弥太郎・一郎兵衛	江戸城本丸座敷能、「わらうちの事」の注記	控
1652	2	6	八右衛門	うつぼ猿	シテ	弥次兵衛	薪能初日南大門能	薪
1652	2	8	八右衛門	花子	シテ		薪能三日目御社上り能	薪
1652	11	28	八右衛門	神崎	シテ坊主	弥右衛門	春日若宮祭礼後日能、薩摩守	若宮
1653	2	6	八右衛門	八幡前	アド	弥右衛門・弥二兵衛	薪能初日南大門能	古2
1653	2	6	大倉八右衛門	八幡前	アド	弥右衛門・弥次兵衛	薪能初日南大門能	薪
1653	2	8	八右衛門	昆布売	シテ	長大夫	薪能三日目御社上り能	古2
1653	2	9	八右衛門	文相撲	シテ	太左衛門・治右衛門	薪能四日目南大門能	古2
1653	2	13	大倉八右衛門	狂言	シテ	弥太郎	薪能六日目南大門能、古は口真似・弥太郎	薪
1653	5	1	八右衛門	花子	シテ	太左衛門・太兵衛	八右衛門宅稽古狂言か	古9
1653	5	1	八右衛門	チキリ木	シテ	弥次兵衛・佐左衛門他	八右衛門宅稽古狂言か	古9
1653	5	18	八右衛門	語那須与市	シテ		相馬長門守忠胤邸所望狂言	古9
1653	5	18	八右衛門	舞かけきよ	シテ		同上	古9
1653	5	18	八右衛門	栗焼	シテ	孫左衛門	同上	古9
1653	5	20	八右衛門	入間川	シテ	弥次兵衛・太兵衛	平野権平長勝邸所望狂言	古9
1653	5	20	八右衛門	花子	シテ	弥次兵衛・太左衛門	同上	古9
1653	5	20	八右衛門	柿山伏	シテ	太兵衛	同上	古9
1653	6	10	八右衛門	大黒連歌	シテ	弥次兵衛・太左衛門	江戸城本丸座敷能	古9
1653	6	19	八右衛門	舞もち酒	シテ	喜左衛門	保科肥後守正之邸囃子	古9
1653	6	20	八右衛門	ふあく	シテ	佐左衛門・弥次兵衛	酒井讃岐守忠勝邸上野僧正饗応能	古9
1653	7	2	八右衛門	舞三人夫	シテ		中川山城守久清邸酒井雅楽頭忠清饗応囃子	古9
1653	7	2	八右衛門	舞土車	シテ		同上	古9
1653	7	2	八右衛門	舞宇治晒	シテ		同上	古9
1653	7	10	八右衛門	舟ふな	シテ	藤井兵左衛門	中川山城守久清邸母儀饗応囃子狂言	古9
1653	7	10	八右衛門	舞京之町	シテ		同上	古9
1653	7	10	八右衛門	語那須与市	シテ		同上	古9
1653	7	10	八右衛門	ぬらぬら	シテ	兵左衛門	同上	古9
1653	7	10	八右衛門	舞かけきよ	シテ		同上	古9
1653	8	4	八右衛門	入間川	シテ	兵左衛門・市左衛門	有馬中務少輔忠頼邸上野門跡饗応能	古9
1653	8	4	八右衛門	能道成寺	アドアイ	北十大夫	同上	古9
1653	8	4	八右衛門	悪坊	シテ	兵左衛門・又左衛門	同上	古9
1653	8	4	八右衛門	犬山伏	シテ	兵左衛門・弥次兵衛	同上	古9
1653	8	16	八右衛門	風流	シテ松	長大夫	江戸城本丸公家衆饗応能、松竹風流	古9
1653	8	16	八右衛門	犬山伏	シテ	長大夫	同上、ただし「是ハ無御座候」	古9
1653	11	28	大倉八右衛門	ブス	アド	大倉弥太郎・弥次兵衛	春日若宮祭礼後日能	若宮
1654	2	9	八右衛門	子盗人	シテ	太左衛門・治右衛門	薪能二日目南大門能	古2
1654	2	9	大倉八右衛門	子盗人	シテ		薪能二日目南大門能	薪
1654	2	10	八右衛門	三番三		年用	薪能三日目御社上り能、「橋かゝりまい」の注記	古2
1654	2	10	八右衛門	庭鳥むこ	シテ	弥二兵衛・弥右衛門他	同上	古2
1654	2	10	八右衛門	式三番			薪能三日目御社上り能	薪
1654	2	10	八右衛門	鶏むこ	シテ	弥二兵衛	同上	薪
1654	2	11	八右衛門	能藤永	オモアイ	大倉主馬	薪能四日目南大門能	古2
1654	3	19	大蔵八右衛門	三番三		桜井八右衛門	仙台東照宮落慶奉祝能初日、「初日」の注記	古5
1654	3	19	八右衛門	福乃神	シテ	万之允・清兵衛	同上	古5
1654	3	19	八右衛門	粟田口	シテ	二郎左衛門・治右衛門	同上	古5
1654	3	19	八右衛門	子盗人	シテ	太郎左衛門・徳左衛門	同上	古5
1654	3	20	八右衛門	三番三		庄左衛門	仙台東照宮落慶奉祝能後日、「橋かゝりまひ」の注記	古5
1654	3	20	八右衛門	庖丁聟	シテ	太左衛門・清兵衛他	同上	古5
1654	3	20	八右衛門	墨塗	シテ	太左衛門・万之允	同上	古5
1654	3	20	八右衛門	能道成寺	オモアイ	庄左衛門	同上	古5
1654	3	20	八右衛門	釣狐	シテ	太左衛門	同上	古5
1654	3	20	八右衛門	柿山伏	シテ	万之允	同上	古5
1654	6	6	八右衛門	引敷むこ	シテ	弥二兵衛・次右衛門他	伊達陸奥守忠宗邸毘沙門堂門跡等饗応能	古5
1654	6	6	八右衛門	楽阿弥	シテ	弥二兵衛・治右衛門	同上	古5
1654	6	12	八右衛門	舞三人夫	アド	弥太郎・長大夫	松平下総守忠弘邸細川越中守綱利饗応囃子	古5
1654	6	12	八右衛門	舞かまくら	シテ		同上	古5
1654	6	12	八右衛門	舞春事	アド	弥太郎・長大夫	同上	古5
1654	6	14	八右衛門	舞もちさけ	アド	弥太郎・喜左衛門	細川越中守綱利邸松平下総守忠弘饗応囃子	古5
1654	6	14	八右衛門	舞道明寺	シテ		同上	古5
1654	7	12	八右衛門	萩大名	シテ	太兵衛・兵左衛門	伊達美作守綱宗邸稽古能	古5
1654	7	12	八右衛門	ぬらぬら	シテ	兵左衛門	同上	古5
1654	7	12	八右衛門	能春永	アイ	綱宗	同上	古5
1654	7	26	八右衛門	舞まつゆつりは	アド	弥太郎・長大夫	松平右衛門佐光之邸老中等饗応囃子	古5
1654	7	26	八右衛門	ふあく	シテ	伝右衛門・太兵衛	伊達陸奥守忠宗邸寛永寺斎慶院饗応能	古5
1654	7	26	八右衛門	茶つほ	シテ	兵左衛門・太兵衛	同上	古5
1654	8	9	八右衛門	庭鳥むこ	シテ	佐左衛門・兵左衛門他	伊達陸奥守忠宗邸名馬拝領祝賀能	古5
1654	8	9	八右衛門	犬山伏	シテ	兵左衛門・太兵衛他	同上	古5
1654	8	9	八右衛門	能道成寺	オモアイ	十大夫	同上	古5
1654	8	9	八右衛門	花子	シテ	兵左衛門・太兵衛	同上	古5
1654	8	15	八右衛門	水懸聟	アド男	佐左衛門・六兵衛	江戸城二の丸慰み能	古5
1654	8	15	八右衛門	チキリ木	シテ	六左衛門・弥太郎他	同上、御所望	古5
1654	8	20	八右衛門	あはた口	シテ	兵左衛門・勘太郎	伊達陸奥守忠宗邸寛永寺僧饗応狂言	古5
1654	8	20	八右衛門	悪坊	シテ	文右衛門	同上、御所望	古5
1654	8	29	八右衛門	秀句傘	シテ	庄兵衛・治右衛門	平野権平長勝邸慰み能	古5
1654	8	29	八右衛門	ふあく	シテ	弥二兵衛・兵左衛門	同上	古5
1654	9	2	八右衛門	なへ八抱	シテ	太兵衛・兵左衛門	伊達美作守綱宗邸慰み能	古5

Hosei University Repository

27　大蔵清虎上演年譜考

年	月	日	名前	演	役名	他	備考	資料
1654	9	2	八右衛門	文相撲	シテ	二郎左衛門・治右衛門	同上	古5
1654	9	2	八右衛門	釣狐	シテ	兵左衛門	同上	古5
1654	9	2	八右衛門	柏落	シテ	二郎左衛門・治右衛門	同上	古5
1654	9	2	八右衛門	チキリ木	シテ	太兵衛・兵左衛門他	同上	古5
1654	9	7	八右衛門	舞土車	シテ		水戸中納言頼房邸僧侶饗応囃子	古5
1654	9	8	八右衛門	くりやき	シテ	喜左衛門	細川越中守綱利邸所望狂言	古5
1654	9	8	八右衛門	諂那須与一	シテ		同上	古5
1654	9	8	八右衛門	鬼瓦	シテ	喜左衛門	同上	古5
1655	2	13	大倉八右衛門	式三番			薪能三日目御社上り能	薪
1655	2	14	八右衛門	すり	シテ	弥次兵衛・弥右衛門弟子	薪能四日目南大門能	薪
1655	3	21	大蔵八右衛門	あさう	シテ	太左ヱ門・次右ヱ門他	堺七堂勧進狂言初日	明暦
1655	3	21	八右衛門	犬山伏	シテ	金右ヱ門・清十郎他	同上	明暦
1655	3	21	八右衛門	三人かたわ	アド	弥右衛門・弥太郎他	同上	明暦
1655	3	23	八右衛門	三番神		禰宜弾正	堺七堂勧進狂言二日目	明暦
1655	3	23	八右衛門	うつほさる	シテ	弥次兵へ・二郎左ヱ門他	同上	明暦
1655	3	25	八右衛門	せんし物	シテ	太左ヱ門・太兵へ他	堺七堂勧進狂言三日目	明暦
1655	5	11	八右衛門	祢宜山伏	アド祢宜	佐左衛門・太左衛門他	江戸城西丸慰み能	古5
1655	5	11	八右衛門	水かけむこ	シテ	伝右衛門・六左衛門	同上	古5
1655	6	5	八右衛門	祢宜山伏	アド祢宜	佐左衛門・太左衛門他	江戸城二の丸慰み能	古5
1655	6	5	八右衛門	能道成寺	アドアイ	八郎	同上	古5
1655	6	5	八右衛門	禁野	シテ	弥二兵衛・太兵衛	同上	古5
1655	6	5	八右衛門	能安宅	アドアイ	八郎	同上、佐左衛門に代って	古5
1655	6	9	八右衛門	末広	シテ	弥二兵衛・二郎左衛門	水戸中納言頼房邸慰み能	古5
1655	6	9	八右衛門	枕物狂	シテ	兵左衛門・弥二兵衛他	同上	古5
1655	6	9	八右衛門	能放下僧	アイ	水戸中将	同上	古5
1655	6	9	八右衛門	比丘貞	シテ	兵左衛門・二郎左衛門	同上	古5
1655	6	9	八右衛門	ふあく	シテ	弥次兵衛・兵左衛門	同上	古5
1655	7	11	八右衛門	入間川	シテ	太左衛門・甚兵衛	酒井日向守忠能邸酒井雅楽頭子女饗応能	古5
1655	7	11	八右衛門	さつまの守	シテ舟さし	治右衛門・太左衛門	同上	古5
1655	7	11	八右衛門	せつぶん	シテ	太左衛門	同上	古5
1655	7	11	八右衛門	蟹山伏	シテ	治右衛門・甚兵衛	同上	古5
1655	7	24	八右衛門	萩大名	シテ	弥二兵衛・作十郎	弥右衛門宅小幡勘兵衛景憲招待狂言尽	古5
1655	7	26	八右衛門	米一	アド立衆	弥右衛門・弥次兵衛他	江戸城二の丸慰み能	古5
1655	7	26	八右衛門	姨が酒	シテ	長大夫	同上	古5
1655	7	26	八右衛門	金頭地蔵	アド立頭	弥右衛門・佐左衛門	同上	古5
1655	8	11	八右衛門	舞宇治晒	シテ		中川山城守久清邸酒井雅楽頭忠清饗応囃子	古5
1655	8	22	八右衛門	舞もちさけ	アド	弥右衛門・長大夫	大久保加賀守忠職邸酒井雅楽頭忠清饗応囃子	古5
1655	8	22	八右衛門	ふちまつ	アド	長大夫	同上	古5
1655	8	22	八右衛門	ぶす	アド	弥右衛門・長大夫	同上	古5
1655	9	6	八右衛門	舞三人夫	シテ		酒井雅楽頭忠清邸松平和泉守乗久饗応囃子	古5
1655	9	6	八右衛門	舞土車	シテ		同上	古5
1655	9	18	八右衛門	靭猿	シテ	弥二兵衛・太左衛門	江戸城二の丸将軍家綱慰み能	古5
1656	2	12	八右衛門	いろは問答	アド	八右衛門子	薪能二日目南大門能	薪
1656	2	13	八右衛門	かなつ／地蔵	アド	八右衛門子・ヤ二兵衛	薪能三日目御社上り能	薪
1656	ウ4	25	八右衛門	靭猿	シテ		御膳立の間敷舞台狂言尽し	柳営
1656	ウ4	25	八右衛門	二人大名	シテ		同上	柳営
1656	ウ4	25	八右衛門	福神	ツレ	仁右衛門・長大夫	同上	柳営
1656	5	26	八右衛門	ひつくり	シテ		将軍家綱酒井讃岐守邸御成能	柳営
1656	5	26	八右衛門	ひつくり女	シテ	長大夫	将軍家綱酒井讃岐守邸御成能	甲子
1656	6	9	八右衛門	能大社	アイ	十大夫	江戸城二の丸能	柳営
1656	6	11	八右衛門	うつほ猿	シテ		江戸城御座之間狂言尽し	柳営
1656	6	11	八右衛門	二人大名	シテ		同上	柳営
1656	6	28	八右衛門	能道成寺	オモアイ	十大夫	江戸城本丸諸門跡饗応能	柳営
1656	7	18	八右衛門	二人袴	シテ		江戸城二の丸能	柳営
1656	7	18	八右衛門	唐人相撲	シテ		同上	柳営
1656	9	13	八右衛門	三本之柱	シテ		江戸城二の丸能	柳営
1657	2	8	八右衛門	伊勢山伏	シテ	太左衛門・弥次兵衛	薪能二日目南大門能、朱注記「大黒イ」、禰宜山伏	薪
1657	2	10	八右衛門	シヤテイ	シテ	弥次兵衛	薪能三日目御社上り能、朱注記「舎弟」	薪
1657	2	14	八右衛門	蚊之相撲	シテ	太左衛門	薪能七日目南大門能	薪
1657	9	19	八右衛門	ジンバイ	シテ		江戸城本丸公家衆饗応能	柳営
1657	10	26	八右衛門	三本柱	シテ		江戸城本丸御一門・諸大名饗応能	柳営
1657	11	7	八右衛門	公事罪人	シテ		江戸城本丸能	柳営
1657	11	7	八右衛門	三人片輪	アド	伝右衛門・作左衛門	同上	柳営
1658	2	8	八右衛門	不聞座頭	シテ	太左衛門・治右衛門	薪能二日目南大門能	古2
1658	2	10	八右衛門	蟹山伏	シテ	太左衛門・治右衛門	薪能三日目御社上り能	古2
1658	9	28	八右衛門	フアク	シテ		江戸城公家衆饗応能	柳営
1658	9	28	八右衛門	能加茂	アイ	今春	同上	柳営
1658	11	9	八右衛門	ヤホ	シテ		江戸城本丸能、ヤヲを訂	柳営
1659	1	2	八右衛門	文相撲	シテ	太左衛門・八郎左衛門	南都八右衛門宅狂言初め	古5
1659	1	29	八右衛門	三番三		金春八左衛門	尾張光友中納言昇任祝賀能初日	古5
1659	1	29	八右衛門	あさう	シテ	太左衛門・八郎左衛門他	同上	古5
1659	1	29	八右衛門	能八嶋／那須	アイ	金春喜左衛門	同上	古5
1659	1	29	八右衛門	能道成寺	オモアイ	七左衛門	同上	古5
1659	1	29	八右衛門	花子	シテ	太左衛門・八郎左衛門	同上	古5
1659	1	29	八右衛門	若市	シテ	太左衛門・藤左衛門他	同上	古5
1659	2	1	八右衛門	能賀茂／御田	シテ		尾張光友中納言昇任祝賀能後日	古5
1659	2	1	八右衛門	せんし物	シテ	太左衛門・八郎左衛門他	同上	古5
1659	2	1	八右衛門	入間川	シテ	太左衛門・八郎左衛門	同上	古5
1659	2	1	八右衛門	釣狐	シテ	太左衛門	同上	古5

Hosei University Repository

年	月	日	名前	演	役名	他	備考	資料
1659	2	1	八右衛門	あはたロ	シテ	太左衛門・八郎左衛門	広幡中納言御覧狂言	古5
1659	2	1	八右衛門	花子	シテ	太左衛門・八郎左衛門	同上	古5
1659	2	8	八右衛門	粟田口	シテ	太左衛門・治右衛門	薪能二日目南大門能	古2
1659	2	10	八右衛門	さつくは	シテ	太左衛門・治右衛門	薪能三日目御社上り能	古2
1659	4	4	八右衛門	せんし物	シテ	太左衛門・助左衛門他	興福寺一乗院門跡得度祝賀能	古5
1659	4	4	八右衛門	能八鳴／那須	アイ	金剛二郎九郎	同上	古5
1659	4	4	八右衛門	いくゐ	シテ	太左衛門・八郎左衛門	同上	古5
1659	4	28	八右衛門	舞もちさけ	アド	伝右衛門・伝四郎	伊達陸奥守綱宗邸饗応囃子	古5
1659	4	28	八右衛門	舞宇治晒	シテ		同上	古5
1659	5	25	八右衛門	せんしもの	シテ	弥二兵衛・太左衛門他	関但馬守長政邸酒井雅楽頭忠清饗応能	古5
1659	5	25	八右衛門	犬山伏	シテ	太左衛門・弥二兵衛他	同上	古5
1659	5	25	八右衛門	三人片輪	シテ	伝右衛門・弥二兵衛他	同上	古5
1659	5	28	八右衛門	三人夫	シテ	弥二兵衛・太左衛門他	将軍家綱元服祝賀能四日目	古5
1659	5	28	八右衛門	三人夫	シテ		将軍家綱元服祝賀能四日目	柳営
1659	6	14	八右衛門	文相撲	シテ	太左衛門・二郎左衛門	細川越中守綱利邸上野門跡饗応能	古5
1659	6	14	八右衛門	ふあく	シテ	弥二兵衛・太左衛門	同上	古5
1659	6	15	八右衛門	柏落	シテ	治右衛門・太左衛門	相馬長門守忠胤邸客人饗応能	古5
1659	6	15	八右衛門	武悪	シテ	太左衛門・二郎左衛門	同上	古5
1659	6	19	八右衛門	舞もちさけ	アド	伝右衛門	水戸中納言頼房邸饗応囃子	古5
1659	6	19	八右衛門	舞土車	シテ		同上	古5
1659	6	19	八右衛門	ぶす	シテ	伝右衛門・六左衛門	同上	古5
1659	6	26	八右衛門	庖丁むこ	シテ	太左衛門・弥二兵衛他	丹波若狭守長次邸叔母饗応囃子	古5
1659	6	26	八右衛門	花子	シテ	弥二兵衛・治右衛門	同上	古5
1659	6	26	八右衛門	いくゐ	シテ	弥二兵衛・太左衛門	同上	古5
1659	6	26	八右衛門	粟田口	シテ	太左衛門・二郎左衛門	同上	古5
1659	7	8	八右衛門	舞三人夫	アド	伝右衛門	小笠原右近大夫忠真邸水戸中納言頼房饗応囃子	古5
1659	7	8	八右衛門	舞もちさけ	シテ	伝右衛門	同上	古5
1659	7	8	八右衛門	舞土車	シテ		同上	古5
1659	7	8	八右衛門	舞いたいけし	シテ		同上	古5
1659	7	8	八右衛門	舞宇治の晒	シテ		同上	古5
1659	7	8	八右衛門	舞あま	シテ		同上	古5
1659	7	8	八右衛門	舞景清	シテ		同上	古5
1659	7	13	八右衛門	舞三人夫	シテ	伝右衛門・六左衛門	水戸中納言頼房邸紀州宰相尾州宰相饗応囃子	古5
1659	7	13	八右衛門	舞土くるま	シテ		同上	古5
1659	7	13	八右衛門	ふねふな	アド	伝右衛門	同上	古5
1659	7	14	八右衛門	舞もちさけ	シテ	喜左衛門	細川越中守綱利邸松平相模守光仲饗応囃子	古5
1659	7	14	八右衛門	舞宇治晒	シテ		同上	古5
1659	7	16	八右衛門	庖丁むこ	シテ	弥二兵衛・二郎左衛門他	酒井与四郎忠挙邸狂言尽	古5
1659	7	16	八右衛門	朝猿	シテ	弥二兵衛・二郎左衛門他	同上	古5
1659	7	16	八右衛門	せいらゐ	アドゑんま	弥二兵衛・太左衛門他	同上	古5
1659	7	26	八右衛門	舞三人夫	アド	伝右衛門・伝四郎	徳川右京大夫頼重邸土井大炊頭子息饗応囃子	古5
1659	7	26	八右衛門	舞道明寺キリ	シテ		同上	古5
1659	7	26	八右衛門	舞景清	シテ		同上	古5
1659	7	26	八右衛門	舞いたいけしたる	シテ		同上	古5
1659	7	26	八右衛門	萩大名	シテ	太左衛門・治右衛門	酒井雅楽頭忠清邸慰み能	古5
1659	7	26	八右衛門	脱	シテ	太左衛門	同上	古5
1659	7	26	八右衛門	祭花	シテ	二郎左衛門・甚兵衛	同上、察化	古5
1659	7	28	八右衛門	三人夫	アド	伝右衛門・弥太郎他	尾張中納言光義邸老中饗応囃子、小舞か	古5
1659	8	5	八右衛門	もちさけ	アド	弥太郎・長大夫他	紀伊中納言頼宣邸老中饗応囃子、小舞か	古5
1659	8	5	八右衛門	舞宇治晒	シテ	弥太郎	同上	古5
1659	9	19	八右衛門	文相撲	シテ	太左衛門・次右衛門	将軍家綱本丸わたまし祝賀能二日目、日は実紀	古5
1659	9	19	八右衛門	ふあく	アドしう	仁右衛門・半兵衛	同上	古5
1659	9	19	八右衛門	プスマフ	シテ		江戸城本丸能	柳営
1659	9	27	八右衛門	子盗人	シテ	弥二兵衛・太左衛門	江戸城本丸公家衆饗応能	古5
1659	9	27	八右衛門	コヌス人	シテ		江戸城本丸公家衆饗応能	柳営
1659	10	22	八右衛門	連歌盗人	シテ	弥二兵衛・太左衛門	将軍家綱本丸わたまし祝賀能三日目	古5
1659	10	22	八右衛門	連哥盗人	シテ		江戸城本丸能	柳営
1659	10	26	八右衛門	舞三人夫	アド	弥太郎・仁右衛門	水戸宰相光圀邸老中等饗応囃子	古5
1659	10	26	八右衛門	舞爰はどこぞ	シテ		同上	古5
1659	10	27	八右衛門	文相撲	シテ	喜左衛門・太左衛門	細川越中守綱利邸能	古5
1659	10	27	八右衛門	鬮罪人	シテ	弥二兵衛・太左衛門他	同上	古5
1659	10	28	八右衛門	舞三人夫	アド	弥太郎・長大夫	尾張中納言光義邸老中饗応囃子	古5
1659	10	28	八右衛門	ぶす	アド	弥太郎・長大夫	同上	古5
1659	11	5	八右衛門	あさう	シテ	弥二兵衛・二郎左衛門他	酒井雅楽頭忠清下屋敷慰み能	古5
1659	11	5	八右衛門	首引	アド	太左衛門・二郎左衛門他	同上	古5
1659	11	5	八右衛門	つうゑん	シテ	太左衛門・甚兵衛	同上	古5
1659	11	6	八右衛門	舞腐かりかね	アド	弥太郎・喜左衛門	井伊家家督相続祝賀饗応囃子	古5
1659	11	9	八右衛門	釣狐	シテ	弥二兵衛	松平加賀守綱紀邸祝賀能初日	古5
1659	11	9	八右衛門	能道成寺	オモアイ	竹田権兵衛	同上	古5
1659	11	11	八右衛門	花子	シテ	太左衛門・二郎左衛門	松平加賀守綱紀邸祝賀能後日	古5
1659	11	11	八右衛門	能安宅	オモアイ	竹田権兵衛	同上	古5
1659	11	11	八右衛門	柿山伏	シテ	八郎左衛門	平野権平長勝邸能	古5
1659	11	11	八右衛門	鬮罪人	シテ	九右衛門・次右衛門他	同上	古5
1660	1	2	八右衛門	今参	シテ	彦五郎・神原次郎左衛門	南都八右衛門宅狂言初め	古6
1660	1	2	八右衛門	宗論	シテ	弥次兵衛・次郎太郎	同上	古6
1660	1	5	八右衛門	今参	シテ	彦五郎・二郎左衛門	田原本平野権平長勝邸能初め	古6
1660	1	5	八右衛門	花子	シテ	弥次兵衛・勘兵衛	同上	古6
1660	1	5	八右衛門	せんし物	シテ	勘兵衛・二郎左衛門他	田原本平野権平長勝邸能、日付不審	古6
1660	1	5	八右衛門	粟田口	シテ	二郎左衛門・八郎左衛門	同上	古6

Hosei University Repository

29　大蔵清虎上演年譜考

年	月	日	名前	演	役名	他	備考	資料
1660	1	5	八右衛門	釣狐	シテ	弥二兵衛	同上	古6
1660	2	8	大倉八右衛門	起上りこぼし	シテ	同子	薪能二日目南大門能、二人大名	薪
1660	2	8	八右衛門	二人大名	アド	彦五郎・三太郎	薪能二日目南大門能	古2
1660	2	9	八右衛門	花折	アド	彦五郎・弥太郎他	薪能三日目御社上り能	古2
1660	2	12	八右衛門	しとうほうかく	シテ		薪能六日目南大門能	薪
1660	2	12	八右衛門	融方角	シテ	弥二兵衛・太左衛門他	薪能六日目南大門能	古2
1660	4	18	八右衛門	舞今参キリ	シテ	彦五郎	浜松城小舞狂言	古6
1660	4	18	八右衛門	舞道明寺	シテ		同上	古6
1660	4	26	八右衛門	今参	シテ	彦五郎・二郎左衛門	酒井雅楽頭忠清邸囃子能	古6
1660	4	26	八右衛門	宗論	シテ	弥二兵衛・甚兵衛	同上	古6
1660	4	26	八右衛門	ふあく	シテ	弥次兵衛・太左衛門	同上	古6
1660	5	2	八右衛門	舞三人夫	アド	伝右衛門・六左衛門	水戸中納言頼房邸囃子	古6
1660	5	2	八右衛門	舞土車	シテ		同上	古6
1660	5	2	八右衛門	舞宇治晒	シテ		同上	古6
1660	5	10	八右衛門	舞三人夫	シテ	彦五郎	酒井雅楽頭忠清邸囃子狂言	古6
1660	5	10	八右衛門	いくゐ	シテ	弥二兵衛・甚兵衛	同上	古6
1660	5	10	八右衛門	三人かたわ	シテ	弥二兵衛・二郎左衛門他	同上	古6
1660	5	22	八右衛門	福の神	シテ	弥二兵衛・太左衛門	水野出羽守忠職邸能	古6
1660	5	22	八右衛門	今参	シテ	彦五郎・二郎左衛門	同上	古6
1660	5	22	八右衛門	花子	シテ	太左衛門・次右衛門	同上	古6
1660	5	22	八右衛門	武悪	シテ	弥二兵衛・太左衛門	同上	古6
1660	5	25	八右衛門	舞もち酒	シテ	彦五郎	伊達陸奥守綱宗邸饗応囃子	古6
1660	5	25	八右衛門	舞今参キリ	シテ	彦五郎	同上	古6
1660	5	25	八右衛門	舞春事	シテ		同上	古6
1660	5	28	八右衛門	三本柱	シテ	太左衛門・九右衛門他	酒井雅楽頭忠清下屋敷饗応能	古6
1660	5	28	八右衛門	不聞座頭	シテ	弥二兵衛・次右衛門	同上	古6
1660	5	29	八右衛門	舞もちさけ	アド	伝右衛門	小笠原右近大夫忠真邸饗応囃子	古6
1660	6	5	八右衛門	粟田口	シテ	弥二兵衛・二郎左衛門	水戸宰相頼房邸饗応能	古6
1660	6	5	八右衛門	惣八	シテ	九右衛門・二郎左衛門	同上	古6
1660	6	5	八右衛門	薩摩守	シテ舟さし	彦五郎・喜平次	同上	古6
1660	6	5	八右衛門	チキリ木	シテ	弥二兵衛・九右衛門他	同上	古6
1660	6	10	八右衛門	舞三人夫	アド	弥太郎・長大夫	尾張中納言義直邸老中饗応囃子	古6
1660	6	10	八右衛門	舞鵜飼キリ	シテ		同上	古6
1660	6	10	八右衛門	犬山伏	シテ	弥次兵衛・次右衛門他	丹波左京大夫光重邸能	古6
1660	6	10	八右衛門	釣狐	シテ	弥次兵衛	同上	古6
1660	6	14	八右衛門	入間川	シテ	弥次兵衛・次右衛門	酒井雅楽頭忠清邸囃子狂言	古6
1660	6	14	八右衛門	連歌盗人	シテ	弥二兵衛・二郎左衛門	同上	古6
1660	6	14	八右衛門	腹不立	シテ	二郎左衛門・次右衛門	同上	古6
1660	6	14	八右衛門	昆布売	シテ	弥次兵衛	同上、所望	古6
1660	7	5	八右衛門	舞もちさけ	アド	伝右衛門	松平形部大輔頼元邸饗応囃子、原閏6月	古6
1660	7	5	八右衛門	舞土車	シテ		同上	古6
1660	7	5	八右衛門	舞京乃町	シテ		同上	古6
1660	7	14	八右衛門	今参	シテ	彦五郎・二郎左衛門	西本願寺築地門跡邸狂言、原閏6月	古6
1660	7	14	八右衛門	花子	シテ	弥二兵衛・二郎左衛門	同上	古6
1660	11	28	八右衛門	いくゐ	シテ	弥太郎・弥二兵衛	春日若宮祭礼後日能	若宮
1660	11	28	八右衛門	いくゐ	シテ	弥太郎・弥二兵衛	春日若宮祭礼後日能	古2
1661	1	1	八右衛門	粟田口	シテ	太左衛門・二郎左衛門	南都八右衛門宅狂言初め	古6
1661	2	9	八右衛門	茶つぼ	アド	彦五郎・喜平二	薪能二日目南大門能	古2
1661	2	10	八右衛門	さつまの守	アド舟頭	彦五郎・喜平次	薪能三日目御社上り能	古2
1661	6	4	八右衛門	栗焼	アド	伝右衛門	伊達亀千代邸囃子	古6
1661	6	4	八右衛門	鞍馬参	シテ	伝右衛門	同上	古6
1661	6	4	八右衛門	語すゝき庖丁	シテ		同上、語り不記	古6
1661	6	13	八右衛門	粟田口	シテ	太左衛門・次右衛門	水野出羽守忠職邸能	古6
1661	6	13	八右衛門	二人大名	アド	次右衛門・喜平次	同上	古6
1661	6	13	八右衛門	釣狐	シテ	太左衛門	同上	古6
1661	6	21	八右衛門	舞三人夫	アド	伝右衛門	伊達亀千代髪置祝儀囃子	古6
1661	6	22	八右衛門	さつまの守	アド舟さし	彦五郎・喜平次	平野権平長勝邸土屋但馬守数直饗応能	古6
1661	6	22	八右衛門	柏落	シテ	次右衛門・八郎左衛門	同上	古6
1661	7	11	八右衛門	二人袴	シテ	太左衛門・弥次兵衛他	江戸城本丸慰み囃子狂言	古6
1661	7	11	八右衛門	祢宜山伏	シテ	弥二兵衛・太左衛門他	同上	古6
1661	7	11	八右衛門	どぶがつちり	シテ	弥次兵衛・太左衛門	同上	古6
1661	7	11	八右衛門	二人はかま	シテ		江戸城本丸囃子	柳営
1661	7	11	八右衛門	ねき山伏	シテ		同上	柳営
1661	7	11	八右衛門	どぶがつちり	シテ		同上	柳営
1661	7	25	八右衛門	舞もちさけ	シテ		酒井雅楽頭忠清邸わたまし囃子	古6
1661	7	25	八右衛門	舞京の町	シテ		同上	古6
1661	7	25	八右衛門	舞三人夫	シテ		同上	古6
1661	8	28	八右衛門	舞三人夫	アド	弥太郎・伝右衛門	徳川左馬頭綱重邸わたまし囃子	古6
1661	ウ8	22	八右衛門	柏落	シテ		平野権平長勝邸土屋但馬守数直饗応能	古6
1661	ウ8	24	八右衛門	花折	アド	彦五郎・次右衛門他	平野権平長勝邸内藤出雲守忠由饗応狂言	古6
1661	ウ8	24	八右衛門	柿山伏	シテ	次右衛門	同上	古6
1661	ウ8	25	八右衛門	舞土車	シテ		太田備中守資宗邸饗応小舞	古6
1661	ウ8	25	八右衛門	舞うかひ	シテ		同上	古6
1661	ウ8	25	八右衛門	舞かけきよ	シテ		同上	古6
1661	ウ8	25	八右衛門	語なすの与一	シテ		同上	古6
1661	ウ8	26	八右衛門	舞三人夫	アド	伝右衛門、彦五郎	伊達亀千代邸囃子	古6
1661	ウ8	26	八右衛門	しびり	アド	彦五郎	同上	古6
1661	ウ8	26	八右衛門	ぬらぬら	アド	彦五郎	同上	古6
1661	9	4	八右衛門	靭猿	シテ	勘兵衛・二郎左衛門	平野権平長勝邸太田備中守資宗饗応能	古6

Hosei University Repository

年	月	日	名前	演	役名	他	備考	資料
1661	9	7	八右衛門	さつまの守	シテ	弥二兵衛・太左衛門	江戸城本丸公家衆饗応能	古6
1661	9	7	八右衛門	さつまの守	シテ		江戸城本丸公家衆饗応能	柳営
1661	9	21	八右衛門	舞三人夫	アド	弥太郎・長大夫他	水戸中将光圀邸老中饗応囃子	古6
1661	9	22	八右衛門	舞土車	アド	弥太郎・長大夫他	水戸中将光圀邸物頭衆饗応囃子	古6
1661	9	22	八右衛門	舞春事	シテ		同上	古6
1661	9	22	八右衛門	舞うかひ	シテ		同上	古6
1661	9	22	八右衛門	舞かけきよ	シテ		同上	古6
1661	9	23	八右衛門	舞土車	シテ		有馬松千代邸饗応囃子	古6
1661	9	23	八右衛門	ぬらぬら	アド	彦五郎	同上	古6
1661	10	18	八右衛門	花折	アド	彦五郎・二郎左衛門他	平野権平長勝邸饗応能	古6
1661	10	19	八右衛門	ぬらぬら	アド	彦五郎	蜂須賀阿波守光隆邸狂言	古6
1661	10	19	八右衛門	舞今参キリ	シテ	彦五郎	同上	古6
1661	10	27	八右衛門	犬山伏	シテ	二郎左衛門・勘兵衛他	平野権平長勝邸稲葉美濃守子息饗応能	古6
1661	10	29	八右衛門	文すまふ	シテ	二郎左衛門・治右衛門	某所小川吉之允能	古6
1662	11	28	大倉八右衛門	やわたむこ	シテ	弥次兵衛・十郎兵衛	春日若宮祭礼後日能、存疑	若宮
1663	11	28	大倉八右衛門	あはたくち	アド	大倉弥右衛門・弥次兵衛	春日若宮祭礼後日能、存疑	若宮